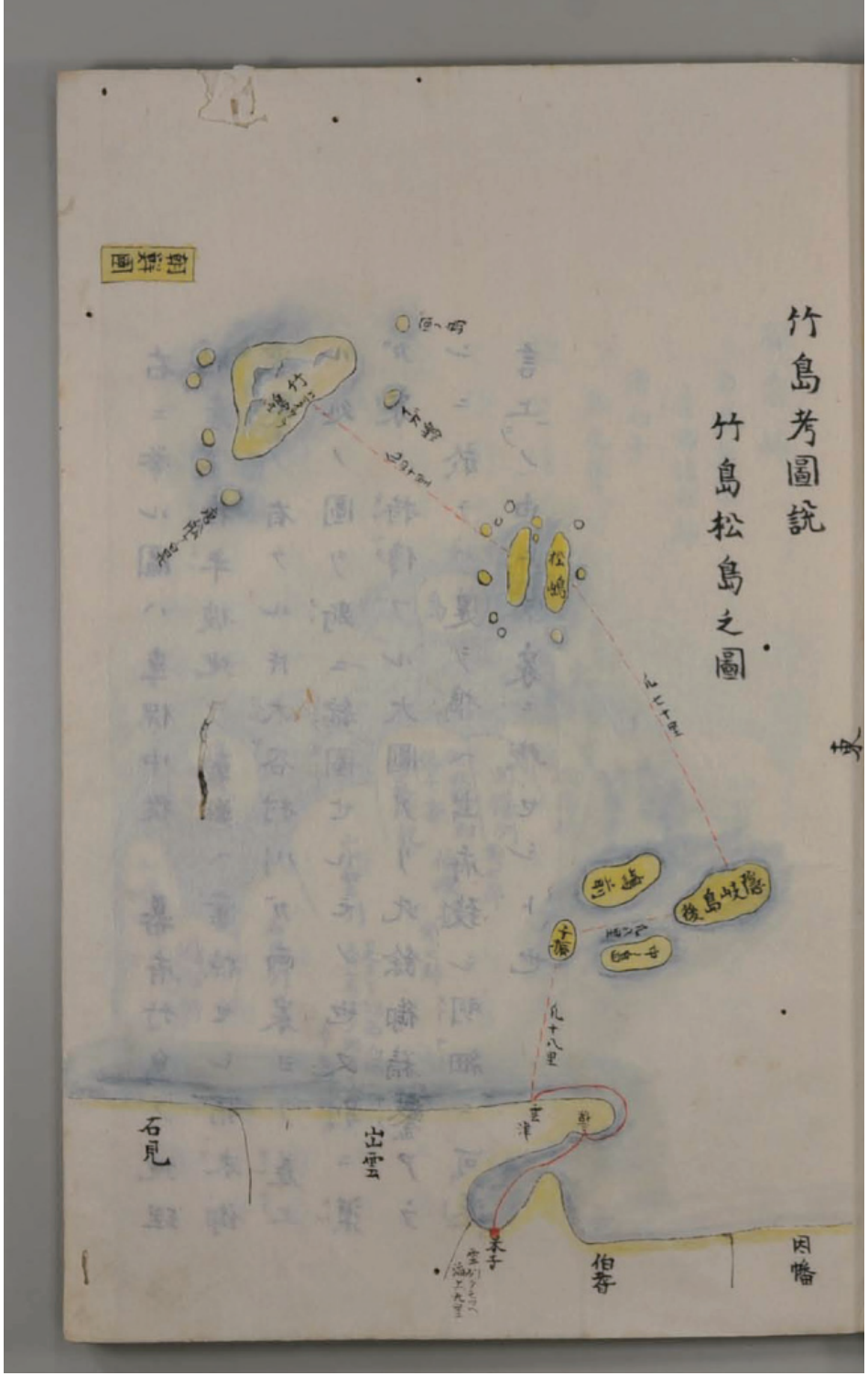
鳥取県立博物館所蔵



鳥取県立博物館所蔵

海上ニテハ帆綱ヲ捌キ或ハ艪ヲ
ナシテ船ヲ進ム逗留ノ間ハ島猟
ノ働ヲスル者ナルベシ

都合戦拾一人也

他ノ船ノ乗組モ大概コレニ可準但年ニヨリテ人数ノ増減モ可有後年ニ及デハ半ヲ減ジテ壹艘ニ廿五人程ヲ遣スヿニ相成タリ毎年二三月ノ比船ヲ整ヒ米子ヲ發船シ隱岐國ニ船ヲ繫留四月上旬ノ比順風便潮ヲ俟テ帆ヲ開キ先松島ト云小嶼ニ船ヲ寄テ漁猟ヲ始メ其ヨリ竹島ヘ渡海シテ夏ノ間所務ヲ成シ秋ニ逾テ皈帆スルヿ又彼島ニテ專トセル産物ハ鰒海鹿ノ両種ヘ海鹿一名ヲミチト云海濱ノ岩頭ニ上ルヲ伺テ鉄炮ニテ打捕皮ヲ剥ギ油ヲ煎ズルヘ其油ハ燈ニ用ルニヤ又他ニ調法アルニヤ未詳之ヲ和漢三才圖繪ニ云桜海鹿昂海獺也但本草謂頭如馬者差耳紀列有海鹿島多群居毎好眠上島上鼾睡唯一頭換四方若漁舟来則誘起悉轉入水中潛游甚速而難捕其肉亦不甘美唯熬油耳西國鳧々亦有之其聲畧似大如家犬蓋海獺海鹿一物出備考合

家集

我戀ハアシカラ子ロフ蝦夷船ノ
ヨリミヨウスミ波間ヲヅヒツ　仲正

鳥取県立博物館所蔵

翻刻

【訳】

3p

（竹島渡海船の乗り組み員の構成と物産）

（一　水夫）

海上では帆綱をさばいて船を進め、島に逗留中は、猟の仕事をする者たちである。

総勢二十一人（寛文中朝鮮に漂着した船においては）

他の船も大概同じようであるが、年によって増減があり、後年は一艘に二十五人ほど乗って行った。

（原文）

毎年二三月ノ比船ヲ整ヒ米子ヲ発船シ隠岐國二船ヲ繋留四月上旬ノ比較順風便潮ヲ俟テ帆ヲ開キ先松島ト云小嶼二船ヲ寄テ漁猟ヲ始メ其レヨリ竹島へ渡海シテ復ノ間所務ヲ成シ秋ニ逾テ皈船スル

（訳）

毎年二、三月頃米子を出て、隠岐国に船を繋留し四月の上旬に出発した。まず松島（現在の竹島）という小島に寄って漁猟を始め、それから竹島（鬱陵島）に渡海して漁猟を行い、秋に帰帆した。

（訳続き）

その島での主な産物は、鮑とアシカである。アシカは一名ミチという。鉄砲で打ち、皮を剥ぎ、煎じて油をとる。「和漢三才図絵」にも記載がある。

家集

我が恋はあしかをねらう蝦夷船の
よりみよらずみ波間をぞまつ

仲正（源仲正　みなもとのなかまさ）